

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和 3 年 6 月 28 日

作成者： 藤井 健三

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的な数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

* この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
日本スリランカ友の会関西	
事業名	日時(期間)、場所
リフレシメガネのスリランカへの寄贈	通年(随時)
内容(実績) *実施したことを具体的に	受益者数
この家庭で不用となったメガネをご提供いただくために、リデあしやで開催した「スリランカ物産展」及び「ふんあいスリランカフェ」の際には、不要メガネの提供を呼びかけるチラシや現地での贈呈式やメガネを必要とするスリランカ人の様子を撮影した写真や当会の活動を報じた新聞記事などを展示し、来場者の理解と協力を求めた。	(-) 人
	参加者数
	(-) 人
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
当会のスリランカに対するリフレシメガネ寄贈事業の原動力は、仏教国スリランカで貧しいとされている眼の視力の提供において日本への最大のドナー国であることにある。そのお返しとしてのメガネの寄贈は、メガネが高くて買えないスリランカ農山村部の貧しい人々にとっては大変喜ばれている。いわばメガネのリサイクル活動であるが、メガネには、使っていた人の愛着があり、使えなくなったからといってすぐゴミとして廃棄することには抵抗を感じる人は少なくない。リフレシメガネを発展途上国スリランカで生き返らせることは数人である。	
今後の展望(どのように継続、発展するか)	
今後とも機会あるごとに、広く呼びかけを継続するが、他市の例では、あるボランティアグループが当会のメガネ寄贈活動に共感され、メガネリサイクル活動を会の活動テーマにとり込み、メガネの収集と地域での呼び掛け、年に2回定期的に送り付いている。各分野でリサイクルの気運が高まる中で、一度役目を終えたメガネも、「集める人」～「リフレシメガネを届ける人」～「現地に届ける人」という各段階の協力者を得て生き返り、スリランカの地で再び役立つという国際ボランティアによるサプライチェーンを確立するものとした。	